

# 新規事業採択時評価結果一覧

【公共事業関係費】  
【道路・街路事業】  
【直轄事業等】

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析		防災機能等の貨幣換算が困難な効果の評価				担当課 (担当課長名)			
		貨幣換算した便益: B (億円)		費用: C (億円)	B/C	ネットワークの評価			個別事業の評価 (主なもの)		
		便益の内訳及び主な根拠				主要都市・拠点 間の防災機能 リンクの防災機能の 評価レベル (目標) 現況→整備後	ネットワーク 全体の防災機能 改善度				
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 侍浜～唐土 国土交通省	880	675	【内訳】 走行時間短縮便益: 548億円 走行経費減少便益: 84億円 交通事故減少便益: 43億円 【主な根拠】 計画交通量: 4,600台/日	760	1.4	0.9	(B) D → B	1.1	a) 洋野町小字内地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 洋野町～八戸市立市民病院間 (36分～23分) 13分短縮 c) 八戸市～久慈市間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 菅代～久慈 国土交通省	1,140	1,181	【内訳】 走行時間短縮便益: 997億円 走行経費減少便益: 110億円 交通事故減少便益: 74億円 【主な根拠】 計画交通量: 10,700台/日	975		1.2	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 野田村前浜地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 菅代村～県立久慈病院間 (40分～22分) 18分短縮 c) 久慈市～菅代村間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 尾肝要～菅代 国土交通省	360	326	【内訳】 走行時間短縮便益: 260億円 走行経費減少便益: 43億円 交通事故減少便益: 22億円 【主な根拠】 計画交通量: 5,800台/日	307		1.1	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 菅代村明神地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 野田村～県立宮古病院間 (54分～30分) 24分短縮 (うち当該事業区間5分短縮) c) 菅代村～野田村間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 田野畑前～尾肝要 国土交通省	360	292	【内訳】 走行時間短縮便益: 250億円 走行経費減少便益: 26億円 交通事故減少便益: 16億円 【主な根拠】 計画交通量: 6,100台/日	304		0.96	(B) D → B	1.3	a) 田野畑村島越地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 田野畑村～県立久慈病院間 (65分～49分) 16分短縮 c) 田野畑村～岩泉市間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 田老～岩泉 国土交通省	470	462	【内訳】 走行時間短縮便益: 375億円 走行経費減少便益: 55億円 交通事故減少便益: 31億円 【主な根拠】 計画交通量: 7,300台/日	392		1.2	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 岩泉町小本地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 山田町～県立宮古病院間 (54分～30分) 24分短縮 (うち当該事業区間10分短縮) c) 宮古市～岩泉市間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <宮古～八戸> 宮古中央～田老 国土交通省	1,210	1,485	【内訳】 走行時間短縮便益: 1,174億円 走行経費減少便益: 221億円 交通事故減少便益: 91億円 【主な根拠】 計画交通量: 8,700台/日	1,019		1.5	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 宮古市田老地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 野田村～県立宮古病院間 (54分～30分) 24分短縮 (うち当該事業区間9分短縮) c) 宮古市～久慈市間の連絡速度が48km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <釜石～宮古> 山田～宮古南 国土交通省	570	1,067	【内訳】 走行時間短縮便益: 838億円 走行経費減少便益: 163億円 交通事故減少便益: 65億円 【主な根拠】 計画交通量: 12,800台/日	497		2.2	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 山田町大沢地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 山田町～県立宮古病院間 (54分～24分) 30分短縮 c) 釜石港～宮古市 (77分～55分) 22分短縮	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <釜石～釜石> 吉浜～釜石 国土交通省	770	1,235	【内訳】 走行時間短縮便益: 975億円 走行経費減少便益: 164億円 交通事故減少便益: 96億円 【主な根拠】 計画交通量: 10,600台/日	659		1.9	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 釜石市唐丹町北地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 釜石市～県立大船渡病院間 (47分～28分) 19分短縮 c) 釜石港～仙台南1C (242分～143分) 99分短縮 (うち当該事業による短縮16分)	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
三陸沿岸道路 一般国道45号 <釜石～釜石> 唐桑北～陸前高田 国土交通省	600	448	【内訳】 走行時間短縮便益: 360億円 走行経費減少便益: 60億円 交通事故減少便益: 28億円 【主な根拠】 計画交通量: 8,400台/日	515		1.5	0.9	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 陸前高田市気仙町地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 釜石市～県立大船渡病院間 (49分～28分) 21分短縮 (うち当該事業区間11分短縮) c) 大船渡港～仙台南1C (197分～122分) 75分短縮 (うち当該事業による短縮4分)	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)
三陸沿岸道路 一般国道45号 <釜石～釜石> 気仙沼～唐桑南 国土交通省	670	1,096	【内訳】 走行時間短縮便益: 927億円 走行経費減少便益: 152億円 交通事故減少便益: 17億円 【主な根拠】 計画交通量: 11,100台/日	564			1.9	(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 気仙沼市波板地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 釜石市～県立大船渡病院間 (49分～28分) 21分短縮 (うち当該事業区間11分短縮) c) 大船渡港～仙台南1C (197分～122分) 75分短縮 (うち当該事業による短縮16分)	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)
三陸沿岸道路 一般国道45号 <釜石～釜石> 歌津～本吉 国土交通省	500	582	【内訳】 走行時間短縮便益: 466億円 走行経費減少便益: 101億円 交通事故減少便益: 15億円 【主な根拠】 計画交通量: 10,600台/日	436	1.3		(B) D → B	当該リンクの整備により不通が解消	a) 気仙沼市本吉町小泉地区等において、津波の影響を受けないよう計画 b) 釜石市～石巻赤十字病院間 (115分～62分) 53分短縮 c) 気仙沼港～仙台南1C (152分～99分) 53分短縮 (うち当該事業による短縮11分)	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
東北横断自動車道 釜石秋田線 一般国道283号 <釜石～花巻> 釜石～釜石西 国土交通省	200	239	【内訳】 走行時間短縮便益: 197億円 走行経費減少便益: 22億円 交通事故減少便益: 20億円 【主な根拠】 計画交通量: 9,200台/日	183	2.4	1.3	(B) D → B	1.3	a) 大震災時に、自衛隊等の救助・救援活動の後方支援拠点となっていた遠野運動公園から被災地(釜石市等)への確実なアクセスを確保⇒遠野運動公園～釜石市 (45分～36分) 9分短縮 b) 岩手医科大学付属病院へのアクセス時間短縮に寄与⇒ (138分～104分) 34分短縮 (うち当該事業区間15分短縮) c) 釜石市～花巻市間の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	
東北横断自動車道 釜石秋田線 一般国道283号 <釜石～花巻> 遠野住田～遠野 国土交通省	310	532	【内訳】 走行時間短縮便益: 464億円 走行経費減少便益: 40億円 交通事故減少便益: 28億円 【主な根拠】 計画交通量: 8,100台/日	290		1.8	(B) D → B	1.3	a) 大震災時に、自衛隊等の救助・救援活動の後方支援拠点となっていた遠野運動公園への確実なアクセスを確保⇒東和10～遠野運動公園 (45分～42分) 3分短縮 b) 岩手医科大学付属病院へのアクセス時間短縮に寄与⇒ (138分～104分) 34分短縮 (うち当該事業区間15分短縮) c) 釜石市～花巻市間の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 (課長 三浦真紀)	

東北中央自動車道 一般国道115号 ＜相馬～雲山＞ 相馬～相馬西 国土交通省	220	272	【内訳】 走行時間短縮便益：230億円 走行経費減少便益：25億円 交通事故減少便益：17億円 【主な根拠】 計画交通量：7,700台/日	194	1.1	1.4	(B) D → B	7.1	a)自衛隊基地（福島市）、あずま総合運動公園等の広域陸上輸送拠点が集積する福島市～浜通り（相馬市）間（78分～56分）22分短縮（うち当該事業による短縮6分） b)相馬市～県立医大病院（福島市）間（81分～45分）36分短縮（うち当該事業区間20分短縮） c)相馬市～福島市（78分～56分）22分短縮（うち当該事業による短縮6分）	道路局 国道・防災課 （課長 三浦真紀）	
東北中央自動車道 一般国道115号 ＜相馬～雲山＞ 阿武隈東～阿武隈 国土交通省	150	133	【内訳】 走行時間短縮便益：125億円 走行経費減少便益：-0.3億円 交通事故減少便益：8.0億円 【主な根拠】 計画交通量：7,700台/日	132		1.0	(B) D → B	7.1	a)自衛隊基地（福島市）、あずま総合運動公園等の広域陸上輸送拠点が集積する福島市～浜通り（相馬市）間（78分～56分）22分短縮（うち当該事業による短縮6分） b)相馬市～県立医大病院（福島市）間（81分～45分）36分短縮（うち当該事業区間16分短縮） c)相馬市～福島市（78分～56分）22分短縮（うち当該事業による短縮2分）	道路局 国道・防災課 （課長 三浦真紀）	
宮古盛岡横断道路 一般国道106号 ＜宮古～盛岡＞ 区界～柴川 国土交通省	370	149	【内訳】 走行時間短縮便益：118億円 走行経費減少便益：21億円 交通事故減少便益：10億円 【主な根拠】 計画交通量：3,400台/日	328		0.5	(B) D → B		当該リンクの整備により不通が解消	a)線形不良、狭路区間23箇所を解消し、緊急の物資輸送を確保 b)宮古市～岩手医科大学付属病院への救急搬送の速達性が向上し、連絡時間が短縮（110分～95分） c)盛岡市～宮古市の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 （課長 三浦真紀）
宮古盛岡横断道路 一般国道106号 ＜宮古～盛岡＞ 平津戸・岩井～松草 国土交通省	310	147	【内訳】 走行時間短縮便益：116億円 走行経費減少便益：22億円 交通事故減少便益：9.0億円 【主な根拠】 計画交通量：3,700台/日	277		1.0	(B) D → B	0.5	当該リンクの整備により不通が解消	a)線形不良、狭路区間12箇所を解消し、緊急の物資輸送を確保 b)宮古市～岩手医科大学付属病院への救急搬送の速達性が向上し、連絡時間が短縮（110分～95分） c)盛岡市～宮古市の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 （課長 三浦真紀）
宮古盛岡横断道路 一般国道106号 ＜宮古～盛岡＞ 宮古～箱石 国土交通省	1,080	908	【内訳】 走行時間短縮便益：755億円 走行経費減少便益：107億円 交通事故減少便益：46億円 【主な根拠】 計画交通量：5,100台/日	1,088	0.8	(B) D → B		当該リンクの整備により不通が解消	a)線形不良、狭路区間14箇所を解消し、緊急の物資輸送を確保 b)宮古市～岩手医科大学付属病院への救急搬送の速達性が向上し、連絡時間が短縮（110分～95分） c)盛岡市～宮古市の連絡速度が49km/hから60km/h以上に改善する見込み	道路局 国道・防災課 （課長 三浦真紀）	

※リンクの防災機能の評価レベルについては、主要都市・拠点間を、「耐災害性」、「多重性」の観点から、A～Dの評価レベルに等級分けを行い、連絡する拠点の重要性に応じて、当該リンクの整備による、防災機能の向上（評価レベルの改善）を評価

- A: 主要都市・拠点間を結ぶ主経路及び迂回路（迂回数1.5未満）のいずれも災害危険性が低い場合
- B: 主要都市・拠点間を結ぶ主経路の災害危険性が低い場合
- C: 主要都市・拠点間を結ぶ主経路の災害危険性が高く、迂回路（迂回数1.5未満）の災害危険性が低い場合
- D: 主要都市・拠点間を結ぶ主経路及び迂回路（迂回数1.5未満）のいずれも災害危険性が高い場合

※ネットワーク全体の防災機能の評価については、各市町村から、最寄りの県庁所在地又は高速道路IC及び隣接市町村までの到達時間を計測し、当該リンクの整備による到達時間の短縮度合いを改善度として評価

【道路・街路事業】  
（補助事業等）  
＜復興支援道路＞

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			B/C	貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)
		貨幣換算した便益・B(億円)	費用・C (億円)	便益の内訳及び主な根拠			
地域高規格道路 宮城県北高速幹線道路 主要地方道築館登米線Ⅱ期（中田工区） 宮城県	60	78	51	1.5	①東北自動車道と三陸沿岸道路間を最短距離で結び、アクセス向上及び定時性確保 ②第1次緊急輸送道路としての機能強化 ③第3次救急医療施設（石巻赤十字病院）へのアクセス向上	道路局 環境安全課 （課長 安藤 洋）	

＜ICアクセス道路＞

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			B/C	貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)
		貨幣換算した便益・B(億円)	費用・C (億円)	便益の内訳及び主な根拠			
一般国道大島波板線 （波板工区） 宮城県	40	64	33	1.9	①三陸沿岸道路と国道45号を接続し、両路線へのアクセス向上及び定時性確保 ②三陸沿岸道路と一体になって震災復興を支え災害時に復旧作業や救援活動などに不可欠な道路 ③第2次救急医療施設（気仙沼市立病院）へのアクセス向上	道路局 環境安全課 （課長 安藤 洋）	
市道 北部環状線 岩手県	47	100	43	2.3	①三陸沿岸道路と国道45号を直結する路線として、両路線へのアクセス向上及び定時性確保 ②三陸沿岸道路と一体になって震災復興を支え災害時に復旧作業や救援活動などに不可欠な道路 ③第2次救急医療施設（岩手県立宮古病院）へのアクセス向上	道路局 環境安全課 （課長 安藤 洋）	

【その他施設費】  
【船舶建造事業】

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	評価	担当課 (担当課長名)
大型巡視船 （PL型） 建造（2隻） 海上保安庁	101	今回の震災対応で船体構造・設備上の制限から十分に対応できなかった被災地への緊急物資輸送と給水活動に対応できるようになり、今後、甚大な被害をもたらすとされている東海地震、東南海・南海地震等大規模震災に備え、広範囲かつ大規模な救援活動、救出救助活動が迅速に行える体制が確保できる。	海上保安庁 装備技術部 船舶課 （課長 浅野 富夫）
消防型大型巡視艇 （PC型） 建造（6隻） 海上保安庁	105	整備しようとする大型巡視艇（PC型）は、高機能・高性能化が図られることから、巡視艇としての汎用性が確保されるとともに、操縦性能及び高速性能が向上することから大型タンカー・火災等の消火業務効率は飛躍的に向上する。	